

市立函館病院
外科専門研修プログラム

1. 市立函館病院外科専門研修プログラムについて

市立函館病院外科専門研修プログラムの目的と使命は以下の5点です。

- (1) 専攻医が医師として必要な基本的診療能力を習得すること
- (2) 専攻医が外科領域の専門的診療能力を習得すること
- (3) 上記に関する知識・技能・態度と高い倫理性を備えることにより、患者に信頼され、標準的な医療を提供でき、プロフェッショナルとしての誇りを持ち、患者への責任を果たせる外科専門医となること
- (4) 外科専門医の育成を通して国民の健康・福祉に貢献すること
- (5) 外科領域全般からサブスペシャリティ領域（消化器外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科、乳腺、内分泌外科）またはそれに準じた外科関連領域の専門研修を行い、それぞれの領域の専門医取得へと連動すること

2. 研修プログラムの施設群

当院は函館渡辺病院を連携施設として専門研修施設群を構成します。

本専門研修施設群では2名の専門研修指導医が専攻医を指導します。

専門研修基幹施設

名称	都道府県	統括責任者	専門研修指導医数	2024年 症例数 ※按分後
市立函館病院	北海道	馬渡 徹	1	170

専門研修連携施設

名称	都道府県	担当者名	専門研修指導医数	2024年 症例数 ※按分後
函館渡辺病院	北海道	神田 理	1	33

3. 専攻医の受け入れ数について

本専門研修施設群の3年間 NCD 登録数は約 600 例です。

専門研修指導医は2名で、本年度の募集専攻医数は1名です。

4. 外科専門研修について

- ・外科専門医は初期臨床研修終了後、3年（以上）の専門研修で育成されます。
- ・3年間の専門研修期間中、基幹施設または連携施設で最低6カ月以上の研修を行います。基幹施設あるいは連携施設のいずれか単一の施設で3年間研修する、という研修は行われません。
- ・専門研修の3年間の1年目、2年目および3年目には、医師に求められる基本的診療能力、態度（コンピテンシー）と外科専門研修プログラム整備基準に基づいた外科専門医に求められる知識、技術の習得目標を設定し、その年度の終わりに達成度を評価して、基本から応用へ、さらに専門医としての実力をつけていくように配慮します。具体的な評価方法は後の項目で説明します。
- ・サブスペシャリティ領域の研修プログラムと外科領域専門研修プログラムと連動については、外科とサブスペシャリティ領域との検討の後に提示されます。現時点では未定です。
- ・初期臨床研修期間中に外科専門研修基幹施設や連携施設で経験した症例（NCDに登録されている症例）は、研修プログラム統括責任者が承認した症例に限定して手術症例に加算することができます。

(1) 年次ごとの専門研修計画について

専攻医の研修は、毎年の達成目標と達成度を評価しながら進めます。以下に年次ごとの研修内容・習得目標の目安を示します。なお、習得すべき専門知識や技能は専攻医研修マニュアルを参照して下さい。

【専門研修1年目】

基本的診療能力および外科基本的知識と技能の習得を目標とします。専攻医は定期的開催されるカンファレンスや症例検討会、抄読会、院内主催のセミナーの参加、e-learnig や書籍や論文などの通読、日本外科学会が用意しているビデオライブラリーなどを通して自らも専門知識・技能の習得を図ります。学会研究活動も、地方会や機会があれば全国学会などへも症例報告を発表出来るよう指導します。

【専門研修2年目】

基本的診療能力の向上に加えて、外科基本的知識、技能を実際の診断・治療へ応用する力量を養う事を目標とします。専攻医はさらに学会や研修会への参加を

通して、専門知識・技能の習得を図ります。また、学会誌などへの論文投稿を指導します。

【専門研修3年目】

チーム医療において責任をもって診療にあたり、後進の指導にも参画し、リーダーシップを発揮して、外科の実践的知識・技能の習得により、様々な外科疾患へ対応する力量を養うことを目標とします。カリキュラムを習得したと認められる専攻医には、積極的にサブスペシャリティ領域専門医取得に向けた技能研修に進みます。学会・研究会では積極的に発表し、専門知識を深めます。

(2) 市立函館病院外科専門研修プログラム 研修モデル

- ・市立函館病院（基幹施設）での研修が中心となる。
連携施設では、半年～1年間の研修を行う。

1年次	2年次	3年次
基幹施設	連携施設	基幹施設

(3) 年次到達目標

市立函館病院外科専門研修プログラムでの3年間の施設群ローテーションにおける研修内容と予想される症例経験数を下記に示します。

市立函館病院外科専門研修プログラムの研修期間は3年間としていますが、習得が不十分な場合は習得できるまで期間を延長することになります（未修了）。

一方で、カリキュラムの技能を習得したと認められた専攻医には、積極的にサブスペシャリティ領域専門医取得に向けた教育を開始します。

・専門研修1年目

基幹施設で研修を行います。

消化器外科、心臓血管外科、呼吸器外科、乳腺外科などを研修します。

経験症例200例以上（術者30例以上）

・専門研修2年目

基幹施設または連携施設群のいずれかに所属し研修を行います。

消化器外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科、乳腺外科などを研修します。

経験症例350例以上（術者120例以上）

・ 専門研修 3 年目

2 年間の基幹病院での経験あるいは 2 年目連携施設での修練をもとに、さらに実践的な研修を通して総合的外科診療能力の向上に努めます。2 年間の研修で不足症例（見込みを含め）があれば、これらをカバーできるよう施設を選択します。

(4) 研修の週間計画

基幹施設（市立函館病院）

	月	火	水	木	金	土	日
8:30~8:45 朝カンファレンス	○	○	○	○	○		
8:45~病棟回診・外来	○	○	○	○	○	○	○
9:00~定期手術	○	○	○	○	○		
17:00 ~ 消化器病センター合同カンファレンス		○					

連携施設（函館渡辺病院）

	月	火	水	木	金	土	日
8:00~10:30 術前・術後カンファレンス					○		
9:00~病棟回診	○	○		○	○	○	
9:00~写真			○				
10:30~総回診			○				
10:30~手術		○		○			
(月・火) 14:00~ (金) 12:00~ (土) 10:30~	○		○		○	○	

病棟業務

(5). 研修プログラムに関連した全体行事の年間計画

月	全体行事予定
4	・ 外科専門研修開始：専攻医の指導医に提出用資料の配布 ・ 日本外科学会参加
5	・ 研修修了者：専門医認定審査申請・提出
8	・ 研修修了者：専門医認定審査（筆記試験）
11	・ 日本外科学会参加（発表）
2	・ 専攻医：研修目標達成度評価報告用紙と経験症例数報告用紙の作成（年次報告）（書類は翌月に提出） ・ 専攻医：研修プログラム評価報告用紙の作成（書類は翌月に提出） ・ 指導医・指導責任者：指導実績報告用紙の作成（書類は翌月に作成）
3	・ その年度の研修修了 ・ 専攻医：その年度の研修目標達成度評価報告用紙と経験症例数報告用紙を提出 ・ 指導医・指導責任者：前年度の指導実績報告用紙の提出 ・ 研修プログラム管理委員会開催

5. 専攻医の到達目標（習得すべき知識・技能・態度など）

- ・ 専攻医の研修医期間と通じての到達目標は、「外科専門研修 プログラム整備基準」および「専攻医研修マニュアル」（日本外科学会）に準拠するものとします。
具体的な到達目標については「専攻医研修マニュアル」の到達目標 1（専門知識）、到達目標 2（専門技能）、到達目標 3（学問的姿勢）、到達目標 4（倫理性・社会性など）を参照ください。

6. 各種カンファレンスなどによる知識・技能の習得

（専攻医研修マニュアル-IV 専門研修の目標から到達目標 3（学問的姿勢）参照）

- ・ 基幹施設および連携施設それぞれにおいて医師および看護スタッフによる治療および管理方針の症例検討会を行い、専攻医は積極的に意見を述べ、同僚の意見を聴くことにより、具体的な治療と管理の論理を学びます。
- ・ 放射線診断・病理合同カンファレンス：手術症例を中心に放射線診断部とともに術前画像診断を検討し、切除標本の病理診断と対比します。
- ・ **Cancer Board**：複数の臓器に広がる進行・再発例や、重症の内科合併症を有する症例、非常に稀で標準治療がない症例などの治療方針決定について、内科など関連診療科、病理部、放射線科、緩和、看護スタッフなどによる合同カンファレンスを行います。
- ・ 各施設において抄読会や勉強会を実施します。専攻医は最新のガイドラインを参照するとともにインターネットなどによる情報検索を行います。

- ・ 院内シミュレーターや院内外で開催される講習会、教育用 DVD など積極的に手術手技を学びます。
- ・ 日本外科学会学術集会（特に教育プログラム）、e-learning, 各種の研修セミナーや講習会で、医療倫理、医療安全、院内感染対策、さらに標準的医療および今後期待される先進的医療、等について学びます。

7. 学問的姿勢について

専攻医は医学・医療の進歩に遅れることなく、常に研鑽、自己学習することが求められます。患者の日常的診療から浮かび上がるクリニカルクエスチョンを日々の学習により解決し、今日のエビデンスでは解決し得ない問題は臨床研究に自ら参加、もしくは企画することで解決しようとする姿勢を身につけます。学会には積極的に参加し、基礎的あるいは臨床的研究成果を発表します。さらに得られた成果は論文として発表し、公に広めるとともに批評を受ける姿勢を身につけます。

また、研修期間に以下の要件を満たす必要があります。（専攻医研修マニュアル-到達目標3-参照）

- ・ 日本外科学会定期学術集会に1回以上参加
- ・ 指定の学術集会や学術出版物に、筆頭者として症例報告や臨床研究の結果を発表

8. 医師に必要なコアコンピテンシー、倫理性、社会性などについて

（専攻医研修マニュアル-到達目標3-参照）

医師として求められるコアコンピテンシーには態度、倫理性、社会性などが含まれています。内容を具体的に示します。

- （1）医師としての責務を自律的に果たし信頼されること（プロフェッショナリズム）
 - ・ 医療専門家である医師と患者を含む社会との契約を十分に理解し、患者、家族から信頼される知識・技能及び態度を身につけます。
- （2）患者中心の医療を実践し、医の倫理・医療安全に配慮すること
 - ・ 患者の社会的・遺伝的背景もふまえ患者ごとの的確な医療を目指します。
 - ・ 医療安全の重要性を理解し事故防止、事故後の対応をマニュアルに沿って実践します。
- （3）臨床の現場から学ぶ態度を習得すること
 - ・ 臨床の現場から学び続けることの重要性を認識し、その方法を身につけます。
- （4）チーム医療の一員として行動すること
 - ・ チーム医療の必要性を理解しチームのリーダーとして活動します。
 - ・ 的確なコンサルテーションを実践します。
 - ・ 他のメディカルスタッフと協調して診療にあたります。

(5) 後輩医師に教育・指導を行うこと

- ・自らの診療技術、態度が後輩の模範となり、また形成的指導が実践できるように学生や初期研修医および後輩専攻医を指導医とともに受け持ち患者を担当し、チーム医療の一員として後輩医師の教育・指導を担います。

(6) 保険医療や主たる医療法規を理解し、遵守すること

- ・健康保険制度を理解し保険医療をメディカルスタッフと協調し実践します。
- ・医師法・医療法、健康保険法、国民健康保険法、老人保健法を理解します。
- ・診断書、証明書が記載できます。

9. 施設群による研修プログラムおよび地域医療についての考え方

(1) 施設群による研修

本研修プログラムでは市立函館病院を基幹施設とし、地域の連携施設とともに病院施設群を構成しています。専攻医はこれらの施設群をローテートすることにより、多彩で偏りのない充実した研修を行うことが可能となります。これは専攻医が専門医取得に必要な経験を積むことに大変有効です。大学だけの研修では稀な疾患や治療困難例が中心となり **common diseases** の経験が不十分となります。この点、地域の連携病院で多彩な症例を多数経験することで医師としての基本的な力を獲得します。このような理由から施設群内の複数の施設で研修を行うことが非常に大切です。指導内容や経験症例数に不公平が無いように十分配慮します。

施設群における研修の順序、期間等については、専攻医数や個々の専攻医の希望と研修進捗状況、各病院の状況、地域の医療体制を勘案して、市立函館病院外科研修プログラム管理委員会が決定します。

(2) 地域医療の経験（専攻医研修マニュアル-経験目標3-参照）

地域の連携病院では責任を持って多くの症例を経験することができます。また、地域医療における病診・病病連携、地域包括ケア、在宅医療などの意義について学ぶことができます。以下に本研修プログラムにおける地域医療についてまとめます。

- ・本研修プログラムの連携施設には、その地域における地域医療の拠点となっている施設（地域中核病院、地域中小病院）が入っています。そのため連携施設での研修中に以下の地域医療の研修が可能です。
- ・地域の医療資源や救急体制について把握し、地域の特性に応じた病診連携、病病連携のあり方について理解して実践します。
- ・消化器がん患者の緩和ケアなど、ADLの低下した患者に対して、在宅医療や緩和ケア専門施設などを活用した医療を立案します。

10. 専門研修の評価について（専攻医研修マニュアル-VI-参照）

専門研修中の専攻医と指導医の相互評価は施設群による研修とともに専門研修プログラムの根幹となるものです。

専門研修の1年目、2年目、3年目のそれぞれに、コアコンピテンシーと外科専門医に求められる知識・技能の習得目標を設定し、その年度の終わりに達成度を評価します。このことより、基本から応用へ、さらに専門医として独立して実践できるまで着実に実力をつけていくよう配慮していきます。

（1）フィードバック（形成的評価）

専攻医の研修内容の改善を目的として、随時行われる評価です。

- ① 専攻医が研修状況を研修マニュアル（手帳）で確認と記録を行い、経験した手術症例をNCDに登録します。
- ② 専門研修指導医が形成的評価（フィードバック）を行い、NCDの承認を行います。
- ③ 各年度の終了時および研修施設の移動・ローテーションの際に、研修マニュアルに基づく研修目標達成度評価を行い、研修プログラム管理委員会に報告します。
- ④ 研修プログラム管理委員会は中間報告と年次報告の内容を精査し、次年度の研修指導に反映させます。

（2）研修修了判定（総括的評価）

- ① 知識、病態の理解度、手術・処置手技の到達度、学業実績、プロフェッショナルとしての態度と社会性などを評価します。研修プログラム管理委員会に保管されている年度ごとに行われる形成的評価も参考にします。
- ② 専門研修プログラム管理委員会で総括的評価を行い、満足すべき研修を行い得たものに対して専門研修プログラム統括責任者が外科専門研修修了を交付します。
- ③ この際、多職種（看護師など）のメディカルスタッフの意見も取り入れて評価を行います。

11. 専門研修プログラム管理委員会について

（外科専門研修プログラム整備基準6.4参照）

基幹施設である市立函館病院には、専門研修プログラム管理委員会と、専門研修プログラム統括責任者を置きます。連携施設群には、専門研修プログラム連携施設担当者と専門研修プログラム委員会組織が置かれます。市立函館病院外科専門研修プログラム管理委員会は、専門研修プログラム統括責任者（委員長）、副委員長、事務局代表者、外科の5つの専門分野（消化器外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科、乳腺外科）の研修指導責任者、および連携施設担当委員などで構成されます。研修プログラムの改善へ向けての会議には専門医取得直後の若手医師代表などが加わります。

(1) 専門研修プログラム管理委員会の役割

- ・ 専攻医および専門研修プログラム全般の管理
- ・ 専門研修プログラムの継続的改良
- ・ 専門研修プログラム修了時における修了判定審査

(2) 専攻医等からの評価（フィードバック）をシステム改善につなげるプロセス

- ・ 専門研修指導医および専門研修プログラムの評価を記載した「専攻医による評価」を、各年度修了時に研修プログラム統括責任者に提出する
- ・ 研修プログラム統括責任者は内容報告を匿名化し、研修プログラム管理委員会で審議を行い、プログラムの改善を行う。研修プログラム管理委員会で処理できない重大な問題に関しては、日本専門医機構にその評価を委託する
- ・ 研修プログラム管理委員会では専攻医からの指導医評価報告をもとに指導医の教育能力を向上させる支援を行う
- ・ 専攻医は研修プログラム統括責任者または研修プログラム管理委員会に報告できない事例（パワーハラスメントなど）については、日本専門医機構に直接申し出ることができる
- ・ 専門研修プログラム管理委員会は必要と判断した場合、専攻医指導施設の実地調査および指導を行う。評価にもとづいた改善を記録し、毎年3月31日までに日本専門医機構に報告する。

1.2. 専攻医の就業環境について

- (1) 専門研修期間施設および連携施設の外科責任者は専攻医の労働環境改善に努めます。
- (2) 専門研修プログラム統括責任者または専門研修指導医は専攻医のメンタルヘル스에配慮します。
- (3) 外科専攻医の勤務時間、当直、給与、休日は、労働基準法に準じて専門研修基幹施設、各専門研修連携施設の施設規定に従います。

1.3. 修了判定について

3年間の研修期間における年次毎の評価表および3年間の実地経験目録にもとづいて、知識・技能・態度が専門医試験を受けるのにふさわしいものであるかどうか、症例経験数が日本専門医機構の外科領域研修委員会が要求する内容を満たしているものであるかどうかを、専門医認定申請年（3年目あるいはそれ以後）の3月末に研修プログラム統括責任者または研修連携施設担当者が研修プログラム管理委員会において評価し、研修プログラム統括責任者が修了の判定をします。

1 4. 外科研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件
専攻医研修マニュアルⅧを参照してください。

1 5. 専門研修実績記録システム、マニュアル等について
研修実績および評価の記録

- ・外科学会のホームページにある書式（専攻医研修マニュアル、研修目標達成度評価報告用紙、専攻医研修実績記録、専攻医指導評価記録）を用いて、専攻医は研修実績（NCD 登録）を記載し、指導医による形成的評価、フィードバックを受けます。総括的評価は外科専門研修プログラム整備基準に沿って、少なくとも年1回行います。
- ・市立函館病院にて、専攻医の研修履歴（研修施設、期間、担当した専門研修指導医）、研修実績、研修評価を保管します。さらに専攻医による専門研修施設および専門研修プログラムに対する評価も保管します。
- ・プログラム運用マニュアルは以下の専攻医研修マニュアルと指導医マニュアルを用います。

◎専攻医研修マニュアル

別紙「専攻医研修マニュアル」参照。

◎指導者マニュアル

別紙「指導医マニュアル」参照。

◎専攻医研修実績記録フォーマット

「専攻医研修実績記録」に研修実績を記録し、手術症例はNCDに登録します。

◎指導医による指導とフィードバックの記録

「専攻医研修実績記録」に指導医による形成的記録を記録します。

1 6. 専攻医の採用と修了

(1) 採用方法

市立函館病院外科専門研修プログラム管理委員会は、毎年7月から説明会等を行い、外科専攻医を募集します。プログラムへの応募者は、9月30日までに研修プログラム責任者宛に所定の形式の『市立函館病院外科専門研修プログラム応募申請書』および履歴書を提出して下さい。

申請書は、

- ① <https://www.kanbyou.jp/kenshu/senmon/>よりダウンロード
- ② 電話で問い合わせ(0138-43-2000 内線 3522)
- ③ e-mail で問い合わせ (kanbyou-rinken@hospital.hakodate.hokkaido.jp)

のいずれの方法でも入手可能です。原則として10月頃に書類選考および面接を行い、採否を決定して本人に文書で通知します。応募者および専攻結果については11～12月の市立函館病院外科専門研修プログラム管理委員会において報告します。

(2) 研修開始届け

研修を開始した専攻医は、各年度の5月31日までに以下の専攻医氏名報告書を、日本外科学会事務局および、外科研修委員会に提出します。

- ・ 専攻医の氏名と医籍登録番号、日本外科学会会員番号、専攻医の卒業年度
- ・ 専攻医の履歴書（様式 15-3）
- ・ 専攻医の初期研修修了証

(3) 修了要件

専攻医研修マニュアル参照